

最優秀賞

中学生部門〈夢・希望〉

板橋区立板橋第二中学校2年

伊藤 まどか

生きて語り継ぐ

この夏、私は学校の代表として「中学生平和の旅」に参加した。被爆地長崎で三日間、戦争と平和を学び、地元の人々に報告する区の平和事業だ。初日は被爆体験講話を聞いた。

語り部の永野悦子さんは、原爆で大切な家族を失った。原爆投下の少し前、永野さんが疎開先から無理矢理連れ戻した、妹と弟である。どんなに辛いことだろう。自分のせいだと、自殺まで考えたという。しかし、斑点も出ず、髪も抜けずに生きている自分には使命があると悟り、被爆者の思いを伝えていくことを決意したそうだ。

辛い体験も決して涙をみせることなく、力強く語るその声が、私の胸を打つ。世界中を平和にするためには、まず隣の人と仲良くしその輪を広げていくことが大切だと、将来への期待も語ってくれた。永野さんは自分の使命をすっかり果たしていると思った。

この声を、長崎でとどめてはならない。

この声を、私達の世代で絶やしてはならない。広く長く繋いでいくのだ。

この世界は平和ではない。なぜなら、地球に潜む一万五千発以上の核兵器が、人間を脅かしているからだ。私は核保有国の人々に、永野さんのような被爆者が意志を貫き、生きる姿を見てほしいと思う。母国の兵器はただ威力があるだけ、他国に対抗できるだけで持つものではないことが分かるはずだ。

平和な世界は若い私達が担っている。私にも、ここで聞いたことを社会に、そして後世に向けて発信するべき使命があると思う。

今回初めて、戦後の七十一年間を生き抜いてきた被爆者の声を聞き、自分の立場や役割がはっきりと見えてきた。これから私は、長崎で学び得たものを、大人はもちろん、同世代や後輩達にも、永野さんのように力強く伝えていき、自分の使命を果たしたいと思う。

被爆者の声は私が繋ぐ。世界に平和が訪れるように。